



Information

2017.10

Vol. 77

日本気象協会の最新事業のご紹介

Contents1

「電力取引価格の予測（プライス予測）サービス」を開始
～日本卸電力取引所のスポット取引価格をAI技術で予測～

Contents2

世界初！低動揺ブイを用いた洋上風況観測システム「BuoyLidar(ブイライダー)」を開発
従来比10分の1程度のコスト軽減へ、山形県庄内沖にて実証実験を開始

Contents3

日本気象協会の商品需要予測で「全国小売店パネル調査データ」が活用可能に
～食品や医療品、日用雑貨など、あらゆる商品を対象に高精度な需要予測の提供を目指す～

Contents4

モルドバ共和国と降雹（ひょう）対策で連携、現地で共同研究を開始
～雨雲内での降雹対策用小型ロケット使用による被害軽減を目指す～

Contents5

女性活躍推進企業として「えるぼし（最高評価）」、子育てサポート企業として「くるみん」を取得



長野県南佐久郡佐久穂町・小海町 自駒池

「電力取引価格の予測(プライス予測)サービス」を開始 ～日本卸電力取引所のスポット取引価格をAI技術で予測～

日本気象協会は、民間気象会社として初となる(日本気象協会調べ)、日本卸電力取引所(JEPX)のスポット市場を対象とした電力取引価格予測(以下「プライス予測」)のサービス提供を2017年8月28日(月)から開始しました。

プライス予測では、スポット市場での30分ごとの電力取引価格(システムプライス)を人工知能(AI)によって予測します。これにより、小売電気事業者や発電事業者は、電力の市場調達コストを算出し、電力需要予測値に合わせた経済的かつ効率的な電力調達計画を作成するなど、電力取引の際の支援材料としてご活用いただけます。

また、今秋には地域ごとの価格(エリアプライス)予測を提供開始予定です。

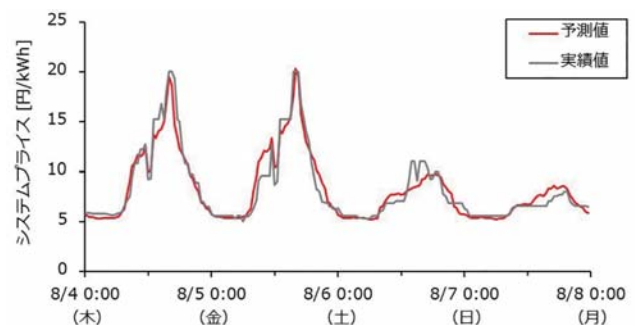


このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<http://www.jwa.or.jp/news/2017/08/post-000899.html>



プライス予測システムの概要



盛夏期の電力取引価格の予測結果
天候、曜日などによる価格の時系列変化を的確に表現

世界初！低動揺ブイを用いた洋上風況観測システム「BuoyLidar(ブイライダー)」を開発 従来比10分の1程度のコスト軽減へ、山形県庄内沖にて実証実験を開始

日本気象協会は、洋上における風況観測の低コスト化を目指して、洋上風況観測システム「BuoyLidar(ブイライダー、愛称:SEAHORSE[シーホース])」を開発しました。本システムは、海面の波浪に伴う揺れが少ない低動揺ブイ(Buoy)に、レーザー光の反射波を捉えて上空の風を計測するドップラーライダー(Lidar)を搭載した世界初のシステムです。本システムの有効性を実証するため、日本気象協会は7月10日(月)より、山形県庄内沖にて洋上風況の観測を開始しました。

■ 実証事業の概要

日本において再生可能エネルギーを最大限導入するためには、洋上風力発電の導入促進が必要不可欠です。また、事業者が洋上風力の事業化を判断するにあたっては、洋上の風況を把握することが最も重要で、洋上風況の観測にかかるコスト軽減が課題となっています。

環境省の「平成28年度CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」に採択された「洋上風況の観測システム

及び推定に関する技術開発・実証事業」では、低動揺ブイとドップラーライダーを組み合わせることで高い精度で低コストに洋上風況を観測できるシステムの開発と、洋上特有の気象・海象を考慮した風況推定手法(風況シミュレーション)の開発に取り組んでいます。本事業の開発により、洋上に観測鉄塔を建設する従来手法では10億円以上を要していた洋上風況観測に係るコストを、10分の1程度に削減することを目指しています。日本気象協会は、本事業を通じて、洋上風力発電事業のさらなる拡大とCO₂排出削減に貢献します。



BuoyLidar全景



このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

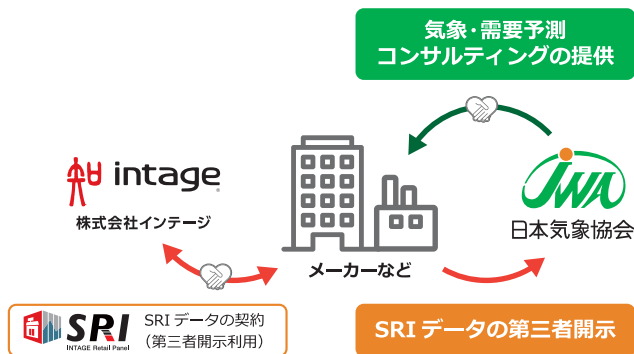
<http://www.jwa.or.jp/news/2017/07/post-000877.html>

Contents3

2017.08.21発表

日本気象協会の商品需要予測で「全国小売店パネル調査データ」が活用可能に ～食品や医療品、日用雑貨など、あらゆる商品を対象に高精度な需要予測の提供を目指す～

日本気象協会は、気象情報をもとにした商品需要予測情報の提供・コンサルティングサービス「商品需要予測事業」にて、株式会社インテージと、インテージが保有する「全国小売店パネル調査データ（以下「SRIデータ」）」の「第三者開



示利用によるデータ活用」に関して合意しましたのでお知らせします。この合意により日本気象協会では今後、食品や医療品、日用雑貨など、あらゆる商品を対象とした需要予測を行うことができるようになります。また、従来よりもさらに高精度の需要予測を行うことができるようになります。

そしてインテージと日本気象協会の両社と契約しているメーカーや小売業などでは過去の実績としてだけでなく、「需要予測」という未来の予測としてもSRIデータを活用することが可能になります。



このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<http://www.jwa.or.jp/news/2017/08/post-000892.html>

Contents4

2017.07.13発表

モルドバ共和国と降雹(ひょう)対策で連携、現地で共同研究を開始 ～雨雲内での降雹対策用小型ロケット使用による被害軽減を目指す～

日本気象協会は、日本国内で培ってきた気象や環境に関する知見、ノウハウを海外で活用していく事業の一環として、2017年7月から東ヨーロッパに位置するモルドバ共和国(以下、モルドバ)の農業食品産業省 降雹(ひょう)対策局(以下、AHS:Anti-Hail Service, 正式名Special Service for the Active Influence on the Hydrometeorologic Processes)と共同で降雹被害の軽減に関する研究を開始しました。共同研究では、AHSの取り組みに、日本気象協会の気象観測・予測技術を掛け合わせ、雹被害をもたらす雨雲検出の効率化などを図ります。研究に先立ち、2017年7月12日(水)にモルドバの首都キシノウ(現地ルーマニア語ではキシノウChişinău)にて、JDI(Joint Declaration of Intent:共同研究の協定書)への調印を行いましたのでお知らせします。

農業国であるモルドバでは気候変動により、初夏の晩霜や夏季の高温や干ばつ、雹など気象に関係する被害が年々大きくなってきており、2012年の被害額は、年間2億1500万MDL(約1450万USD)との報告があり2016年6月19日に降った雹では、18人以上がケガをし、数百もの屋根が壊れたという報道がありました。

旧ソ連の国々やブルガリアなどの周辺諸国では1960年代から雹を小さくするために小型ロケットを雨雲内で破

裂させ、消雹剤(ヨウ化銀)を散布してきました。これにより雹を小さくし、被害の軽減につなげます。AHSによるとモルドバではこの目的のために年間約5,000発のロケットを打ち上げています。

ロケットによる雹被害軽減にはまた雨雲の正確な検出・予測が必要であり、日本気象協会が培ってきた気象観測・予測技術とAHSの経験を掛け合わせ、同国の降雹対策の実施判断を改善する研究を行います。



【調印式の様子】

右:AHSダイレクター(部長相当)ゲナディエ オンチャヌ氏
左:日本気象協会常務理事 古市信道



このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<http://www.jwa.or.jp/news/2017/07/post-000873.html>

女性活躍推進企業として「えるぼし(最高評価)」 子育てサポート企業として「くるみん」を取得

日本気象協会は、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良な企業として、厚生労働大臣から「えるぼし」認定の最高評価(第3段階目(3つ星))の認定を受けました。

また、仕事と子育ての両立を支援する「子育てサポート企業」として、「くるみん」の認定を受けたことをお知らせします。



「えるぼし(第3段階目(3つ星))マークと「くるみん」マーク



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<http://www.jwa.or.jp/news/2017/07/post-000880.html>

「えるぼし」とは

「えるぼし」とは、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画の策定・届出を行った企業のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況などが優良な企業に対して、厚生労働大臣から認定を受けることができる制度です。

日本気象協会は、5つの評価項目(「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」)ですべての基準を満たしていることから、「えるぼし」認定の最高評価(第3段階目(3つ星))の認定を取得しました。

「くるみん」とは

「くるみん」とは、次世代育成支援対策推進法に基づき一般事業主行動計画を策定した企業のうち、目標を達成し、一定の基準を満たした企業に対して、厚生労働大臣から認定を受けることができる制度です。

この認定を受けた企業の証が「くるみんマーク」です。
平成29年3月末時点で、2,695社が認定を受けています。

季節のことは(秋)

日本気象協会は、平成23年(2011年)2月より、現代の季節感にあう「新しい季節のことは」を提案するための取り組みを行ってまいりました。

平成25年(2013年)の春、「季節のことは36選」を選定しました。

「季節のことは36選」はホームページ「暦の上では」やJWAカレンダーなどで紹介しています。

9月／いわし雲、虫の声、お月見

10月／紅葉(もみじ)前線、秋祭り、冬支度

11月／木枯らし1号、七五三、時雨

「暦の上では」ホームページ
<http://24setuki.com>

季節の話題

2017.09.06発表

2017年第1回「紅葉見ごろ予想(カエデ)」を発表 ～東北・北陸地方は平年より遅い紅葉となりそうです～

日本気象協会は2017年9月6日(水)に、日本全国51都市の2017年第1回「紅葉見ごろ予想(カエデ)」を発表しました。

紅葉の見ごろは、秋の気温が低いと早まり、秋の気温が高いと遅くなります。今年の秋(9～11月)の気温は、前半は平年より高いところが多く、後半も北日本は平年並みか高い気温のところが多い見込みです。このため、北日本(北海道・東北)と北陸地方の一部の地域では、平年よりも遅い紅葉となるところが出てくるでしょう。東日本から西日本にかけての紅葉の見ごろは、平年並みのところが多いでしょう。

「紅葉見ごろ予想(カエデ)」<http://www.jwa.or.jp/news/2017/09/post-000906.html>



一般財団法人 日本気象協会



<http://www.jwa.or.jp>
<http://www.tenki.jp>

本社 〒170-6055 東京都豊島区東池袋3丁目1番1号サンシャイン60 (55階)
北海道支社 〒064-8555 札幌市中央区北4条西23丁目1番18号
東北支社 〒982-0841 仙台市太白区向山4丁目20番14号
中部支社 〒462-0042 名古屋市北区水草町1丁目21番5号
関西支社 〒542-0081 大阪市中央区南船場2丁目3番2号南船場ハートビル (15階)
九州支社 〒814-0002 福岡市早良区西新一丁目10番27号西新プライムビル (6階)

電話 (03) 5958-8111 FAX (03) 5958-8113
電話 (011) 622-2230 FAX (011) 640-2383
電話 (022) 216-4181 FAX (022) 216-4188
電話 (052) 912-1111 FAX (052) 911-0117
電話 (06) 6266-8420 FAX (06) 6266-8430
電話 (092) 833-8721 FAX (092) 833-8722

